

信州読書会 ツイキャス読書会

課題図書 ミヒヤエル・エンデ 『モモ』

信州読書会では、毎週、ツイキャスをつかった視聴者参加型の読書会を開催しています。

信州読書会のメルマガ登録者は、課題図書の読書感想文を 800 字で書いていただければ、放送中に紹介します。
(募集要項はメルマガでお伝えします)

また作品に関する質問・感想などは、どなた様も、放送中ツイートいただければ、とりあげます

信州読書会 ツイキャス <http://twitcasting.tv/skypebookclub>

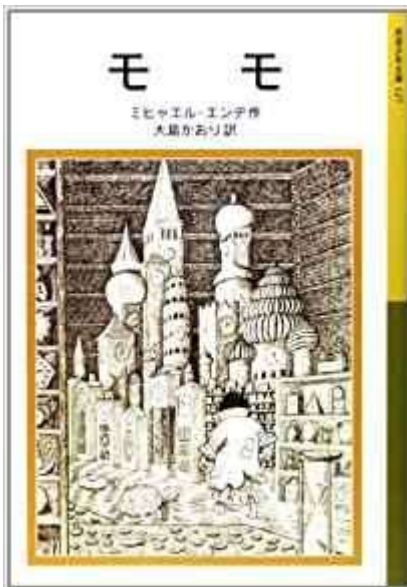
『信州読書会』メルマガ登録はこちらから http://bookclub.tokyo/?page_id=714

今後のツイキャス読書会の予定です。 http://bookclub.tokyo/?page_id=2343

『ツイキャス読書会』音声のバックナンバーです。

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLVj9jYKvinCsgP7jtFgzqxea6cgqd7mrf>

(各回の感想文は動画の下の説明欄に PDF へのリンクを張っております。)



第 79 回のツイキャス読書会の課題図書は、ミヒヤエル・エンデの『モモ』です。

読書感想文を提出して下さった皆さんありがとうございます。

『ファストフード レストラン ニノ』

久しぶりに読みました。子供の頃に移動図書館で借りて、その本が欲しくなって少し高かったのですが買いました。今、その本は実家に置いてあるので今回新たに購入しました。

昔読んだ時は、すごく面白くてすぐにお話の世界に引き込まれたような気がするのですが、今回は『時間泥棒』って何なのか考えながら読みました。

でも、正直分かるような、分からないような感じです。

時間を無駄にせず、がむしゃらに働くという事は大切な事でもあり、今の社会を支えているような気もしますし、だからといってそれだけでは、何の為に働いているのかをすぐに見失ってしまって空っぽになってしまうような気もします。

何もしないでぼーっと過ごす時間も大切だと思うし…。

色々考えた結果、私はバランスの問題なのかな？と思いました。

一生懸命に働く時間、友達の事を大切にしている時間、自分の好きな事をして過ごす時間がどれも必要なんじゃないかなと思いました。

そうできれば豊かに暮らせるという事なのかなと思いました。

最初読んでいて、ジジの事はあまり好きになれなかったのですが、有名になって時間に支配されていたけど、モモがお腹をすかせないように気遣ってあげていて、ジジは野心もあるけど、友達を大切にしている気持ちを無くしてなくて少しホッとできました。

でも、最初は美味しく食べていたモモが食べ過ぎなのか、システムにうんざりしてしまったのか、3回目にボール紙か、かんなくずの味がしたって書いていて少し違和感を感じましたし、よく分かりませんでした。

たしかに、機械的に食事をとっても味気なく感じるのだけど、私はジジの優しさを思うと少し違うかなと思いました。モモにとっては、機械的な食事ならお腹がすいても我慢するほうがマシという事なのかなと分らなかったです。

昔読んだ時は、どんな所が好きだったのか思い出せませんが、他の参加者さんの感想が楽しみです。

(おわり)

「モモ」と言えば、あの虫のこと。

「モモ」を前回読んだのは、いつだったか。途中まで思い出せないままだったのだが、モモがマイスター・ホラに出会ったシーンで、急に感じる感触がよみがえった。

夏の夜、寝る前の習慣だった読書中に、手元のライトだけつけてベッドでページをめくっていたとき、耳の横をガサガサと音を立てて小さな物体が風のように横切った。黒くてつやつやしたあの、飛ぶこともできるあの「虫」が窓から飛び込んできた。名前を出すのも鳥肌が立つくらい大嫌いな。そこからは、家族を巻き込むパニックで、最後は隣の部屋の弟が眠そうに起き出して退治してくれた。「モモ」は高校1年の夏、はじめて読んだということになる。その瞬間はマイスター・ホラが登場したページ。同時に耳元の嫌な感触まで思い出して、背中がぞわっとした。

当時の記憶として残っていたのは「時間をめぐって不思議な世界へ冒険にゆく楽しい物語」だったのだが、今回の印象はまったく違う。メッセージ性のある台詞がおりおりに登場して、「灰色の男たち」「時間の花」「せかせかケチケチしちゃう人間」って？ と、つい現代社会に置き換えたときの暗喩を考えてしまい、残念ながら純粋に物語にはいりこめなかった。読み終えてふと浮かんだ言葉は、「静かな音だけど鳴りっぱなしの警鐘」。いつまでも止まない目覚まし時計なので、自分で考えて止めないといけない。

たしかに現代社会が失ってしまった時間は、人を思いやる気持ちの余裕や、肌でふれあうこと、心を通わせることに通じている。モモのようにただ黙って人の話を聞いてあげる余裕も、いまは失われているかもしれない。まずは自分のことからかえりみなくてはと反省した。

「でもへやがゆれたのではなく、時間がゆれた、言うなれば時震です。」

物語のなかでは時間もゆれたし、ベッドから跳ね起きて我が家の2階が一瞬ゆれたあの夏の夜を懐かしく思い出して、内容とは別に楽しめた。読書とは、読んでいた「あの部屋」までも思い出させてくれる過去への旅。「モモ」らしい再読の体験だった。

(おわり)

「自分を取り戻して自分を生きよう」

モモという物語は児童文学でファンタジー小説だが、忙しい現代の私達大人にも通ずるメッセージがたくさん込められていた。

不思議な少女モモは時間を盗まれた友達のために時間貯蓄銀行の男達から命がけで時間をとりもどそうとする。

時間とは何か？

私はこの答えを探しながら物語をよみすすめた。

時間に追われた生活を続けると私達は大切なことをつい見失う。そして見失っていることに気がつかないまま時間が過ぎ、ついには自分は何のために生きているのかわからなくなってしまうのではないか。

名誉やお金などがついてくるとなおさら執着心によって心がぐもり見えにくくなるのかもしれない。

失うものは仕事への熱意やプライド、大事な友人や家族の愛。

自分が自分自身であるために必要な大切なものだ。

「時間とは生きることそのも、人のいのちは心を住みかとしている」p106 岩波少年文庫

そう。時間とは心なんだと思った。

限られた時間の中で効率よく仕事をこなしたり、生活が便利になる事は決して悪い事ではない。

大切なのは時間を管理する主人が自分自身であること、心を失くさないことだと思った。

それは自分勝手に生きることとは違う。

人の時間を管理して操作して奪っても幸せになれないことをこの物語は教えてくれている。

そこには同じ時間を他者と共有する幸せが含まれていないからだ。

時間とは心。他者と時間を共有することは心と心を合わせる事。それが人々の喜びに繋がるんだと思う。

モモみたいに、わたしはゆっくりと人の話を聞いているだろうか？

きちんと心を合わせてるだろうか？

忙殺していた一ヶ月前を思い出してみる。

記憶があまりない。私は何のために何をしてたんだろう？ (おわり)

ネクストイノベーション

時間貯蓄銀行の営業活動は現代日本にも参考になる。彼らの時間貯蔵庫の蓋はモモによって閉ざされてしまったが、我々国家の中央銀行はまだまだ金融緩和をやめないで、今後は時間に加え灰色の金を使い人々を支配していこう。

申し遅れました。私、時間貯蓄銀行日本支店ナンバーEVA1982/02/12 と申します。

豊かさを追い求める時代は終わったという方もおられますが、駅前に高いマンションを建てればまだまだそこに群がってくる人間は沢山います。人は人を見下ろし優雅な時間を過ごしたいものです。

値段の張る家に住む為、あくせく働かなくてはならない？ 長時間労働規制？

何を仰いますか。ならばお金に働かせるのです。株式、土地、仮想通貨など人間自身が働かなくとも頭さえあればお金は手に入り増やせます。お金があれば時間も買えます。

技術革新の進む AI やロボットの助けも借りましょう。

それにより仕事を奪われる人が出てくるですって？

またまたご冗談を。今までも多くの仕事が工業化と効率化、資本の自己増殖運動により消えて来たでしょう。

それに貴方が今着ている服や食べ物はこの国で作られたものですか？

貴方の日常生活は多くの人の肉体労働により成り立っているんですよ。仕方ありません。それに従事する彼らには学歴や技術がありませんので。替えの人材は山ほどいるのでご心配なく。

その点聡明なお客様はお子様を小さいうちからお勉強をさせている。

そうですね？ 第一街には自然がないし、外遊びさせようにも公園は様々な遊びが禁止ですし、何より世の中は危険が沢山。

親の管理・監視の下、安全に遊ばせ学ばせるのが一番です。

誰かの犠牲など考えてはいけません。蓋をすべきはそう、あなたの見る目、聞く耳、感じる心です。

さあ、ともに時間的にも経済的にも我々と豊かな暮らしを送りましょう。それとも時間と体を酷使しても楽にならない暮らしをお望みですか？

さあ、今すぐスマホ画面の「同意するボタン」を押して下さい。

(おわり)

『今を信じて、駆け抜ける』

『モモ』を読んで、私は二つ印象に残ったことがあった。

一つは、カシオペイアの励ました。カシオペイアは、時間の圏外で生きているそうだ。時間の圏外というのがどういうものなのかははっきりわからなかったけれど、カシオペイアの甲羅に浮かび上がる文字にはどれも勇気がわいた。私もエネルギーをいただいた。

マイスター・ホラの館で、モモが経験したのは、今を生きる自分の時間が与えてくれるエネルギーを客観視したということなのだろうか。館で何かとてつもなく大きな充電をしたのだ。

灰色の男たちとの戦いのさなかでモモが灰色の男たちを見失ったとき、カシオペイアは「ミツカリマス、サキヘスステ！」とモモを導いた。そこに盲目で突き進む信念がモモにあったからこそ、カシオペイアの言葉を拾い上げることができたのだろう。カシオペイアの言葉とモモの信念がマッチして、困難をくぐりぬけることができた体験が私も共にできてうれしかった。

もう一つは、「生きることへの執着と死を恐れる気持ち」だ。灰色男は、死に目を向けたくない、死ぬ前の、体が動かなくなったり、誰かの助けを借りないと生きていけない状態になった自分を想像することへの恐怖心がとても強いのだろう。誰もが避けて通れない事だけれど、やっぱり考えたくないのは私も同じだ。

ふと今、カボチャのパイが無性に食べたくなくなった。見かけによらず結構甘くジューシーなパイ。GWに母と何年振りかの喫茶店に入った時に注文した。

そう言えば母はもう 20 年前から繰り返し自分亡きあとの自宅の処分や断捨離のことにこだわり、私は帰省するたびに繰り返しその話を聞かされてきた。将来自分が居なくなる時の不安なのだ。その不安は母と歳の差が 34 年ある私には未だ消化しきれないものがある。

けれど、母がめったに会えない末娘の私と久しぶりにお茶を飲む時間を持ちたいと願ってくれたあの時間は、私にとってオアシスのようなひとときだった。まるで、マイスター・ホラの館でモモが味わった素敵な朝食のようだった。「死の不安」と「今を生きる」がないまぜになった母の等身大の姿は私にとってこれからも生きるヒントになってくれると思う。

今回も、いろんな気付きがあった読書体験。読書時間の積み重ねは、時間マイスターへの道なのかなあ？まだまだ遠いけれど。

(おわり)

belouga さんのブログです。過去のコラムなども掲載されています。ぜひご覧ください。

『belouga のつれづれ』 <http://ameblo.jp/clearmandarin/>

『 オソイホド ハヤイ 』

時間を「節約」する世界がそれほどおかしいと感じないくらい大人になってからの初読だった。きっと子供の頃に読んでいたら、灰色の男たちがもっと怖かったり、時間の節約に憤慨していたことだろう。

45年前の小説だが、灰色の男たちが再び盛り返したのかと思うくらい、確実に「時間術」の本が売れている現代、「時間術」の著者は灰色の男たちかもしれない。きっと時間貯蓄銀行は大流行りに違いない。だから、主人公のモモの方が現代ではバグなのだろう。

でも、バグがなければ、+とーが平然と並ぶプログラムに誰も疑問を持たない。居酒屋のニノや観光案内のジジのように、無自覚に時間を吸い取られてしまう。モモの身代金を払う「目的」のために「手段」として働くベッポと違い、時間の節約が「目的」になっているのではないかと、自分自身を思わず見つめ直してしまった。手段としての節約なら、とても有意義なことだ。

さらに、時間にも車のハンドルのように「遊び」の部分がないと、モモのように、友人の話に耳を傾けたり、一緒に食事をする事なんてできない。ニノの居酒屋で、孤食するのが精一杯だろう。ただ、「時間」はモモのいうとおり、実体ではなく「概念」だ。なんびとも平等に振り分けられているからこそ、その人間性が色濃くてしてしまう。だから、「どこにもない家」の時間の花は、それぞれひとつひとつ美しさが違うのだろう。

「概念」だからこそ、モモのように音楽のひびきのように、時間を可視化して意識するのも大事なんじゃないかと感じた。私も相当、時間貯蓄銀行に預けているんじゃないかと空恐ろしい。

カメのカシオペアは言う…「オソイホド ハヤイ」。「星の王子さま」も喉が渇かない薬を使って、泉まで歩く時間を一週間に53分節約するより、泉までゆっくり歩くという。私もこんな「遊び」の時間を持てる大人になりたい。そのためには、時間の概念から叩き直さねば。「オソイホド ハヤイ」をひとまず呪文のように唱えるところから…。

(おわり)

岡山読書会のブログです。過去のコラムなども掲載されています。ぜひご覧ください。

<http://ameblo.jp/kaoru8913/>

スカイプで個別読書を主催されています。ご興味ある方はブログからお問い合わせください。

ツイキャスのチャンネルはこちら <https://twitcasting.tv/yuuki27144>

「モモと直観」

マイスター・ホラは、モモにこう言った。

(引用はじめ)

「もし人間が死とはなにかを知ったら、こわいとは思わなくなるだろうにね。そして死をおそれないようになれば、生きる時間を人間からぬすむようなことは、だれにもできなくなるはずだ」 P.237

(引用はじめ)

カント以降の哲学では、人間は、時間と空間に縛られた世界に現象化していると考えられた。

そして、時間に縛られて生きていることを人間だけが自覚している。それをもって「現存在」という。犬猫には過去とか未来という時間軸はない。人間だけが、自分が死ぬことを知っている。犬猫は死を避けるだけだ。

反対に言えば、人間の認識する現象は時間を前提としている。

アキレスと亀の寓話(ゼノンのパラドックス)というのがある。アキレスは亀を追い越すまで、追い越せないという話だ。追い越す瞬間が、いつ来るのか？ 数字で表象すると有限の中に無限が現れてしまう。有限の時間の中に、無限が隠されている。

人間は有限な存在だが、無限を直観して生きている。生は有限であり、死は無限だ。生きている人間は常に限りなく死につつある。

今という瞬間は、我々の生命エネルギーの発現そのものだ。モモは、みんなの生命を刺激して、直観力を促進する。円形劇場は、直観のなかで人間の自分の生命そのものに迫るために舞台であり、時間の花は、直観によって人間が「絶対」「完全」「無限」を体験するフロー状態の比喩だ。

時間を数えることは、死んだ時間の分析である。一方、ワクワクしている時間は、フロー状態のように体験されるものだ。

(引用はじめ)

モモはただジジをじっと見つめました。なににもまして、ジジが病気だということ、死の病にむしばまれているということが、よくわかりました。 P.308

(引用おわり)

時間の奴隷になってしまったジジは、想像力が枯渇してしまった。ジジの想像力の源泉は、リラックスしたモモとのおしゃべりの中にあった。彼はモモを失い、生きながら死んでしまった。

時間泥棒の絶望的なマンネリ感、直観を殺し、生命を殺す。

(おわり)

『信州読書会』メルマガ登録はこちらから http://bookclub.tokyo/?page_id=714
今後のツイキャス読書会の予定です。 http://bookclub.tokyo/?page_id=2343